



とらいあんぐる



2014 年 4 月

一音会ミュージックスクール発行

「花」

春が来ました。サクラをはじめとする花々が、春の訪れを告げています。

私の家にも、1本だけ、花を咲かせる木があります。

庭とも呼べないような小さなスペースに、その木はあります。

とても小さなスペースなのですが、あきらかに不つりあいな木が生えているのです。

そもそも、その木は、私の家が建つずっと前から、そこにありました。

私が生まれるずっとずっと前か

ら、そこにあったのだと思います。

20年以上も前のことですが、私と母は、偶然、その木の前を通りかかり、思わず足を止め、木を見上げました。

木の背後には家も建っていたはずなのですが、どんな家が建っていたか、覚えていません。

そのくらい、木の印象が強いのです。

高さにして、4階建ての建物くらいありました。高いばかりの木ではなく、枝も広くはった、大きな木でした。

あっけにとられるように木を見上げる私と母に、ご近所の方が話

しかけてくださいました。

「この木は見事ですよ。春、いらしてください。驚くことがおこっていますよ」

その方は、おもしろそうに笑いながら、立ち去られました。

その時は、たしか冬のはじめ頃だったように思います。

私も母も、春になったら何がおこるのだろうと、知りたくてたまらなくなりました。

しかし、「また、春になったら、来よう」とは、なりませんでした。

なぜなら、その土地は売り出し中だったからです。

春になるまでに売れてしまうかもしれない・・・。

いや、売れてしまうに決まっています。

売れてしまったら、木は切り倒されてしまうかもしれない・・・。

いや、こんな大きな木を残しておく酔狂な人がいるはずありません。

もう次の春はないと思われました。

母は、私の想像通りの反応をし

ました。すぐにそこに引っ越すことを決めてしまったのです。

春のその木を見たくなかったに違いありません。

かくして、その木は私の家の木になりました。

大きな木に隠れるように、ひっそりと建っていた木造の家は、母が住めるように、バリアフリーの家に建てかえなくてはなりませんでした。

建てかえの際には、母は大工さんと連日、格闘していました。

大工さんいわく、「こんなに大きな木があつては、家なんか建たない！ 木がジャマで重機が入らない！」。

母は母で、実のところ、木のために土地を買ったようなものですから、木を残すことを主張して譲りません。

大工さんに「先生は、木と家とどっちが大事なんですか！？」とまでいわれながら、母は粘りました。

大工さんも熱意に負けたのか、単に面倒になってしまったのか、

結局、重機を通せるギリギリの線として、木を半分だけ残すことに、同意してくれました。

半분을失うとはいえ、もともとが大きな木です。半分だけでも残せることに、ほっとしました。

しかし、枝だけでなく根も半分しか残しませんから、木が生き続けられるか、私も母も不安な日々を過ごしました。

そして、待ちに待った春が来ました。

その木は、一面、真っ白なものにおおわれていました。

母は、「何百羽もの白い鳥がとまったようだ」といいました。

私は、「白い炎が燃え上がるようだ」と思いました。

その木の正体は、モクレンでした。

驚くのは、花の量だけではありません。勢いです。

「もうそろそろ咲くかな」と思っていると、突然、一気に咲きます。

徐々に咲くということがありません。一気にです。

そして、散る時も一気になのです。

満開の時期は、正味2日です。

3日目には、もう散りはじめています。

1年に1回、突然、あらわれ、唐突に去ります。

その強烈なあらわれかたは、毎年の思い出を刻みます。

あの花が咲いた時に・・・と、その年々の思い出がよみがえるのです。

もっとも強く心に刻まれた思い出は、今からちょうど10年前の花の時期です。

母は、10年前の3月、心肺停止をおこし、救急搬送されました。

母の意識は戻りません。戻る気配もありませんでした。

母のいる病院に心を残したまま、私は、まだ幼い子ども達のために、深夜、いったん家に戻らなくてはなりませんでした。

家に戻ると、夜の闇の中に、白装束と化した大きな木が、月明かりに白々と輝きながら、そびえ立っていました。

救急車で家を出た時には、咲い

ていなかったのに、です。

真夜中、誰も見る人もいないのに、突然、満開です。

「葬式なのか・・・葬式の準備なのか・・・」。

それはまるで、母が守った木が、母の死に備えているかのようにでした。

はじめて、この木をこわいと思いました。

けれども、翌日、母は奇跡的に意識を取り戻しました。

とはいえ、まだ予断を許さない状況の中、不安を抱えたままの私が、再び、家に戻ると、咲き誇っていたあの花が、一つ残らず、すべて地面に落ちていました。

白装束を脱ぎ捨てたその姿は、「もう、葬式はしないことにした」といっているようでした。

その時になって、私はやっと、「母は助かったのだ」と、実感することができたのです。

毎年、盛大に咲いては、いさぎよく散っていく花の魅力は、その美しさばかりではありません。

「花は散るから美しい」といっ

たのは、世阿弥だったかと思えます。

今、“この瞬間”しか見ることができない・・・そしてその瞬間は、また1年という長い間、訪れることがない・・・。

だからこそ、今という時に向き合い、花に思いを寄せることができるのでしょうか。

これからも私は、この何もかも知ったふうな巨大な木に見下ろされながら、生きていくのでしょうか。

そして、白く燃える花に、たくさんの思い出を重ねていくのでしょうか。 (江口 彩子)



2014年3月23日撮影

◆新年度の変更ご希望を受けつけています

新年度がスタートしました。

年度の変わり目に、多くの方が曜日や時間、コースの変更をご希望されました。時間割変更の際には、お時間やコースについて、たびたびご相談の連絡をさせていただきましたが、ご家族の皆さまのご協力をいただき、とてもスムーズに組み替え作業をすすめることができました。多くの方が、お仕事の合間をぬって、あるいはご旅行中にもかかわらず、迅速に折り返しのご連絡をくださいました。ご家族の皆さまのご協力に深く感謝し、改めて御礼を申し上げます。

さて、新しい時間割がスタートし、新しい先生、新しいクラス、新しいお友達・・・、いろいろな変化の中、生徒さんは、がんばっているところだと思います。幸せな出会いが多くありますようにと、願っています。

新時間割は、できる限り、皆さまのご希望にそってお組みしたつもりですが、新生活がスタートしてみると、生活のタイムスケジュールが思うようにいかないことも、しばしばです。もし、不都合が判明しましたら、レッスン時間の変更についてご相談ください。

レッスン曜日・時間等の変更は、なるべく早く、本部にお電話ください【本部：03-5966-7711（担当・伊藤、矢島）】。4月15日（火）までに、変更希望をおっしゃっていただければ、5月から新しいスケジュールでお受けになることができます。

ただし、年度がわりの変更と同様、曜日や時間帯を変更される場合、原則として担当も変わってしまいますので、その点はどうかご了承ください。

◆公開レッスンをおこないました

3月16日（日）に、客員教授プリドノフ先生ご夫妻による、公開レッスンをおこないました。

多くの方に足をお運びいただき、ありがとうございました。

先生方のご指導の水準の高さもさることながら、ご参加くださった6名の生徒さんの演奏も素晴らしく、公開レッスンは、大成功をおさめたといえます。ご参加くださった生徒さんのご協力に、心から感謝しています。

今回、プリドノフ先生ご夫妻によるバッハをテーマとした公開レッスンは、はじめての試みでした。熱意あふれる指導に、時間は3時間近くにも及びましたが、次から次に繰り出される、興味深いお話と解釈に、時間を忘れるひとときでした。

公開レッスンをきっかけに、急きょ、プライベートレッスンを希望された方も出て、有意義な機会になったことを嬉しく思います。

◆「第9回ジュニア・コンサート」を開きます

4月28日（月）に「第9回ジュニア・コンサート」を開きます。

「ジュニア・コンサート」は、3月21日におこなわれたオーディションで、難関をくぐりぬけた、7人の生徒さんたちの発表の舞台です。

今年は、オーディション審査をつとめてくださったプリドノフ先生ご夫妻に、「選べない！ 全員出演でも良いくらいだ！」と言わしめた、熾烈をきわめるオーディションでした。選抜基準を過去最高レベルに上げ、その結果、選出された生徒さんは、わずか7人です。

レベルの高い演奏会になることは、間違いありません。

場所は、西武池袋線「大泉学園」駅前の「ゆめりあホール」です。時間は、開場18:30、開演19:00です。

出演される生徒さんと曲目については、教室内にポスターをはりだして、お知らせします。

チケットは、「ショパンはうす」受付で販売しています。チケット料は、小学生以上が、前売り1000円、当日1500円、未就学のお子さまが、前売り500円、当日800円です。ぜひお得な前売りをご利用ください。

◆ピアノ発表会をひらきます

今年の夏の「ピアノ発表会」は、下記の通りです。

8月1日(金)・2日(土)・3日(日)・4日(月)
かつしかシンフォニーヒルズ (京成青砥駅より徒歩5分)

今年の「かつしかシンフォニーヒルズ」は、音響の良さで定評のあるホールです。希望通りのホールをおさえることができました。皆さまも予定に入れておいてください。

この夏、生徒さん全員が大きな舞台を経て、大きく飛躍するよう、スタッフ一同、全力で指導にあたらせていただきます。

「ピアノ発表会」のくわしいご案内は、追ってお配りいたします。ご不明の点は、本部までお気軽にご質問ください【本部：03-5966-7711(担当・谷口)】。

なお、2014年度の年間スケジュール表をお配りしておりますので、その他のイベント日程に関しましては、スケジュール表でご確認ください。

◆お月謝の引き落としについて

お月謝は、通常、前月末に引き落としさせていただいていますが、4月28日(月)(5月分)の引き落としまでは、金額調整がどうしても間に合いません。

したがって、例年お願いしておりますように、4月分、5月分のお月謝は、いったん3月までの額で、引き落としさせていただきます。

5月以降、なるべく早く、新年度からのお月謝との過不足分の精算をさせていただきたいと思います。どうかご了承ください。



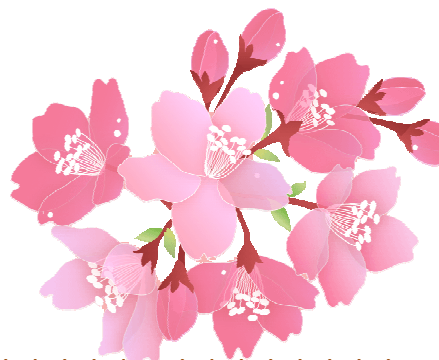
◆たくさんのサクラが咲きました

今年も、受験生が、難関音楽大学の受験を突破されました。嬉しい春です。

“大学全入時代”などといわれる時代が来ますが、いつの時代も、音楽大学入試は難しいものです。

努力を重ね、無事、合格を勝ち取った皆さん、本当におめでとうございます。一音会は、いつまでも皆さんの母校として、皆さんの活躍を全力で応援していきます。

国立音楽大学	(ピアノ専攻)	1名
国立音楽大学	(音楽療法専修)	1名
洗足音楽大学	(音楽・音響デザインコース)	1名
東京音楽大学	(音楽教育ヴァイオリン専攻)	1名
日本大学芸術学部	(ピアノ専攻)	3名



スクールの生徒さんのご質問を、以下の2つの方法で受け付けています。

メール：1000@ichionkai.co.jp 電話：03-3954-9999

* お電話での質問時間は、毎週水曜日の午後7時半～9時半です。ただしレッスンがお休みの日は、質問もお休みとさせていただきます。

* ご質問は、多くの方のご質問にお答えするために、お1人10分を目安とさせていただきます。ご了承ください。